

事業報告書

令和2年4月1日から

令和3年3月31日まで

1 事業の概況

人口減少と高齢化が進む中、昨年度末よりのコロナ禍が大きく影響し、大変厳しい経営環境が続いております。

本年度は年度内のDMV（デュアルモードビークル）営業運行開始を目標に準備を進めてまいりましたが、世界初の本格営業運行に向けた作業は想定以上に協議を要し、試験項目の充実や更なる安全対策の追加などが発生したことから、2021年7月以降に延期することとなりました。

しかしながら、工事の進捗に伴い2020年7月にはJR牟岐線（牟岐・海部間）が運行休止し代替輸送を行い、当社におきましても11月30日をもって阿佐東線における既存車両での営業運行を終了し代替輸送を行っております。

営業面につきましては、6月まではコロナ禍の影響を受け前年度実績を大きく割り込んでしまいましたが、7月からは海部駅へのJR線乗り入れ終了を皮切りに、11月までは阿佐東線さよなら企画のイベントや記念乗車券の販売など、鉄道ファンを中心に全国からの集客が増えたことにより旅客数を伸ばすことが出来ました。またDMVの広報活動として、各種イベントへの参加や視察対応、モニターツアーの開催などを行ってまいりました。

安全面につきましては、鉄道の安全・安定輸送完遂のため列車の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、車両・設備の点検・検査を確実にを行い、安全最優先で業務に取り組みました。JRなど社外の研修、講習会、訓練にも積極的に参加し、社員の知識・技能の向上を図っております。さらに地元の中学校と連携し、列車火災と地震津波を想定した避難訓練を実施し、事故発生時の社員の対応能力の維持・向上を図りました。

費用面では、平成24年度から取り組んでいる「経営改善計画（平成29年度更新）」に基づき人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施しました。

阿佐東線のご利用状況につきましては、定期外人員は47,572人（対前年比92.3%）、定期人員は1,080人（対前年比75.0%）となり、合計で48,652人（対前年比91.8%）となりました。

損益につきましては、営業収益が7,659千円（対前年比111.2%）、営業費用が102,394千円（対前年比118.0%）、営業外収益が5,091千円（対前年比69.9%）、営業外費用が1,387千円（対前年比103.9%）となり、当期経常損失は91,031千円（対前年比123.1%）となりました。これに経営安定基金からの助成金をはじめ

とする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純利益は 1,833 千円となりました。

これらの実績を分析しますと、旅客運輸収入ではコロナ禍の影響により利用客の減少が続く中、鉄道ファンを中心とした記念乗車券の販売収入 2,400 千円が上乘せとなり、年間累計では対前年比 111.0%となりました。営業費用はコロナ対策で実施した大型バスでの代替運行費や誘客モニターツアー開催費などが増加しておりますが、徳島県からのコロナ対策補助金にて収入を計上しております。人件費に関しては前年度を 3,080 千円下回りました。その結果、当期経常損失は前年度から 17,066 千円の悪化となりますが、補助金収入を加えると実質 6,959 千円の改善となりました。

今後も阿佐東地域の少子・高齢化、人口減少、マイカー世代の高齢者層への拡大といった当社を取り巻く環境は今以上に厳しさを増していくと考えられますが、DMVの営業運行開始が「新しい人の流れ」を生み出し、当社の経営改善、並びに阿佐東地域への経済波及効果を最大限に発揮出来るように準備を進めてまいります。また、地元住民と四国遍路などの観光客の大切な移動手段として活用されるよう、鉄道輸送の使命である安全の確保を最優先として、輸送人員と収入の確保、経費の節減に取り組んでまいります。